

『歯車』

不安が織りなす心象風景

- 歯車
  - 主人公「僕」の不安や葛藤を象徴
  - 医学的には偏頭痛の前兆症状
  - ⇒ 精神的な苦悩として表現



New node

- 作中で起こる出来事
  - 季節外れのレインコート
  - 黄色いタクシーへの不安
  - ⇒「僕」の精神状態と結びつく

大震災後の東京



本作の舞台

- 1920年代後半
- 関東大震災の復興期にあった東京
- 新しい時代の息吹が感じられる街並み

- 「僕」の目に映る東京
  - 不気味な様相を呈する
  - ⇒どこか歪んで描かれている

作家の苦悩と挑戦

- 『歯車』＝晩年における苦悩が反映された自伝的小説
- 「僕」
  - 不吉な妄想と創作の狭間で苦しみ続ける
  - ⇒ 芥川自身の実体験が反映



物語の重要な要素

- 「僕」が抱える過去の罪の意識
- ⇒ 芥川自身の後悔を表す
- ⇒ 新しい小説表現への挑戦